

令和7年度第1回
札幌市環境教育・環境学習基本方針推進会議

会 議 録

日 時：2025年7月15日（火）午後3時開会
場 所：札幌市環境プラザ 環境研修室1・2

1. 開 会

○大沼会長 ただいまから、令和7年度第1回札幌市環境教育・環境学習基本方針推進会議を開催いたします。

まずは、事務局から連絡事項をお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 札幌市役所の飯岡でございます。

委員の皆様におかれましては、本日、大変お忙しい中をお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

まず、委員の出席状況でございますが、石澤副会長、松田委員から、所用により多少遅れるというご連絡をいただいております。有坂委員からはまだご連絡がありませんが、遅れて来られるものかと存じます。

オンラインの坂本委員を含め、現在ご出席の委員の皆様方は11名いらっしゃいます。

委員数14名の過半数に達しておりますので、推進会議開催要綱第5条第6項の規定によりまして、本会議が成立していることをご報告いたします。

なお、今年度、新たに3人の委員にご就任いただいておりますことから、後ほど、本日ご出席の委員の皆様方には簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、議事に先立ちまして、札幌市環境局環境都市推進部長の吉田よりご挨拶を申し上げます。

○吉田環境都市推進部長 皆さん、こんにちは。

本年の4月に着任しました環境都市推進部長の吉田でございます。

開会に当たりまして、一言、ご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、本日、ご多忙中のところをご出席賜りまして、本当にありがとうございます。

また、会議に先立ちまして、今年4月に一部の委員について変更があり、新たに3名の方にご参加いただいているところでございます。快く委員をお引き受けいただいたことに大変感謝申し上げます。

さて、札幌市では、平成31年3月に改定しました環境教育・環境学習基本方針に基づきまして、持続可能な社会の実現に向けて、子どもたちから大人まで全ての市民が環境について学び、行動することができるよう、様々な施策を展開しております。

本会議は、その推進に当たりまして、専門的な知見や現場の声を基に施策を点検し、評価していただく重要な場として位置づけております。

本日は、議題も大変多くなっておりますが、札幌市の環境教育のさらなる充実に向けて、委員の皆様から忌憚のないご意見を賜りたいと考えております。

今後も継続的にご協力をいただきながら、ともに歩んでまいりたいと考えておりますので、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 続きまして、委員の皆様方に自己紹介をお願いしたいと存じます。

お座りいただいている順に、大沼先生から反時計回りをお願いできればと思います。

○大沼会長 北海道大学の大沼です。

初めてのの方は、初めまして。

専門は行動科学とか環境心理学をやっています。よろしくお願いいたします。

○斉藤委員 資生館小学校の教頭をしております斉藤健一と申します。

このたび、4月に札幌市小中学校環境教育研究会というものを立ち上げまして、環境教育をより推進していきたいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○能登委員 幌北小学校校長の能登と申します。

生活科・総合的な学習教育連盟というところに所属しておりまして、生活科や総合について学んでいるところでございます。

どうぞよろしくお願いいたします。

○野田委員 札幌市立北都中学校校長の野田でございます。

専門は理科です。

今、北都中学校なのですけれども、20年前も北都中学校にいました。30代のおいしい時代は北都中学校で過ごして、その後、附属中勤務を経て、教育委員会に8年間勤めて、理科担当で教育課程担当にいましたので、環境との関わりをずっと持っていました。そして、現場に戻ってきて、またここに関わるのかなと思うと、楽しみというか、複雑な気持ちでいるところなんです。

どうぞよろしくお願いいたします。

○三浦委員 幌東小学校の三浦です。

昨年に引き続き、お世話になります。いろいろと勉強をさせていただきたいと思います。

専門は理科で、北海道小学校理科研究会、ソニー科学教育研究会に所属しておりますので、関わりが深いところをいろいろと考えていきたいと思っています。

よろしくお願いいたします。

○高橋委員 北海道環境財団の高橋と申します。

私は、自治体向けの脱炭素等の支援や、小学校とか学童向けの環境教育の担当をしております。

このような場に参加するのは初めてになりますので、いろいろと勉強をさせていただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

○先名委員 札幌市PTA協議会で副会長を務めている先名と申します。

12万世帯の保護者の代表という形で、微力ながら参加させていただいて、こちらの活動をより盛り上げていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○酒井委員 初めまして、北海道ガス広報グループでマネジャーを務めております酒井と申します。

広報グループには昨年の4月から赴任しておりまして、現在、エネルギーの環境教育として、小学校に出向いてエネルギーの出張授業や、北海道のLNG拠点である石狩のLNG基地において、PRセンターで小学校のエネルギーの教育の受入れや、あとは、小学校、中学校に限らず、大人の方々向けにもバス見学ツアーということで環境教育を進めております。

この場では、そういった知見から発言できればとも思っておりますし、ここで得た知見を社に戻って生かしていったら、北海道全体の環境教育の推進に貢献できればと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

○中村委員 中村と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○欠委員 市民委員の欠と申します。

「欠」と書いて「がけ」と読みます。

30年間ほど以前は中学校で社会科を担当しておりましたので、環境関係などは、いろいろと勉強してきたことを生かしたいなという気持ちがすごく強くありますので、できるだけこの環境教育・環境学習に生かしていきたいと思っております。

よろしくお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） オンラインの坂本委員、よろしくお願いいたします。

○坂本委員 余市からオンラインで失礼します。

NPO法人北海道エコビレッジ推進プロジェクトの代表をしている坂本です。

今日は、本当は久しぶりに札幌での会議に参加させていただこうと思っていたのですが、明日、東京から来る中学生の食農教育のプログラムの準備のため、そちらに参れませんでした。失礼いたしました。

明日は、まきを割って火をたいたり、ロケットストーブで料理をするというプログラムなのですが、先月に来たグループは、北海道の教育大附属の中学校だったのですが、生き方、働き方というテーマを学校から与えられました。最初の頃は環境教育とうたっていたのですが、最近はそういったソーシャルなテーマも多く、特にまた、低年齢化しているので、社会教育の在り方もだんだん変わっていると感じているところです。

私も勉強させていただきたいですし、ヒントになるような参考のお話をさせていただければ幸いです。

よろしくお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 続きまして、事務局のご紹介を申し上げます。

○事務局（吉田環境都市推進部長） 改めまして、環境都市推進部長の吉田でございます。今日は、どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 私は環境政策課長の飯岡でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 同じく、環境政策課環境教育・啓発担当係長の谷内と申します。よろしくお願いいたします。

○環境プラザ（上杉係長） 札幌市環境プラザの係長をしております上杉と申します。よろしくお願いいたします。

○事務局（村井企画担当係長） 教育委員会教育課程担当課企画担当係長の村井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 以上でございますので、大沼会長、以後の進行をどうぞよろしくお願いいたします。

2. 議 事

○大沼会長 それでは、議事に入らせていただきます。

本日の議題は二つ、その他を入れて三つとなっております。

（１）が札幌市環境教育・環境学習基本方針推進会議開催要綱の改正について、（２）が令和6年度環境教育関係事業の実施結果及び令和7年度同事業の実施予定についてです。

それでは、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） まず、資料の確認をさせていただきます。

本日お配りしました資料ですが、次第、資料1の委員名簿、資料2の札幌市環境教育・環境学習基本方針推進会議開催要綱の改正について、資料3が環境教育関係事業について、資料4が環境教育・啓発に関する連携協定について、そのほか、参考資料として、参考資料1の札幌市環境副教材、参考資料2の令和6年度環境教育へのクリック募金事業報告書、参考資料3の冬休みエコライフレポート2024の取組結果について、夏休みエコライフレポート2025の小学校の1から3年生用と4から6年生用と中学生用、そして、参考資料4の校外学習用バスの貸出し利用校のご紹介、資料5の令和7年度「さっぽろっ子環境ウィーク」の実施について、参考資料6の令和6年度環境教育・環境学習ガイド、参考資料7の令和6年度環境教育・子どもワークショップの概要、参考資料8のさっぽろこども環境コンテスト2024の実施報告、参考資料9のサステナKIDS AWARD 2025札幌報告書と、たくさんになっていますが、よろしくお願いいたします。

もし不備がありましたら、会議の途中でもお声かけください。

それでは、議題（１）札幌市環境教育・環境学習基本方針推進会議開催要綱の改正について

説明をさせていただきます。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） それでは、お手元の資料２の要綱の改正について説明いたします。

資料に記載のとおり、当会議につきましては、本市行政部が定める札幌市附属機関等の設置及び運営に関する要綱の中に懇話会という位置づけがございまして、いわゆる審議会などの法や条例が根拠の附属機関とは明確に区別されております。

このたび、行政部で、この附属機関の要綱を国の指針に合わせて改正したことに伴い、本会議の要綱をそれに合わせて改正したものでございます。

具体的には、これまでこちらの会議は「推進委員会」と名乗っていたのですが、附属機関と混同するおそれがあるため、今回から「推進会議」とさせていただいているほか、「設置」という文言を「開催」に直したり、定数の規定を削除しております。

改正後の本会議の要綱は資料２の次ページ以降に書いてありますので、ご覧ください。

以上です。

○大沼会長 ご説明をありがとうございました。

ただいまの説明につきまして、ご質問等はございませんか。

（質問等はあがらず）

○大沼会長 名称の変更ということだけかと思います。

続きまして、議題（２）に参りたいと思います。

議題（２）につきまして、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） それでは、お手元の資料３の環境教育関係事業について説明させていただきます。

参考資料として、パンフレットやリーフレットなどもご覧いただきて補足しながら説明できればなと思っております。

なお、環境局の事業は私から、教育委員会の事業は村井係長から、環境プラザの事業については上杉係長から、それぞれ説明させていただきます。

まず、１のはじめについてです。

こちらは、２０１９年に改定した札幌市環境教育・環境学習基本方針の取組の四つの柱を示したものです。

１ページ目の下段に記載がありますが、（１）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進、（２）「環境人材」の育成、（３）環境教育・環境学習の場と機会の充実、（４）普及啓発のための情報の発信・広報と行動の後押し、とあり、環境教育関係事業は、これら四つの取組に基づいて実施していることから、各事業をそれぞれの取組に分類し、取組ごとに区切りまして、昨年度の実施状況と今後の予定について説明いたします。

なお、今回は非常に時間が限られているということもありますので、事業の概要の説明は極力省略させていただいて、これまでの実施状況や今後の予定を中心にお話しさせていただきますことをご了承ください。

では、２ページになります。

学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進について、順番に説明させていただきます。

まず、アの環境副教材、教師用手引書につきまして、毎年度、小学校の新１・３・５年生の全児童に紙の冊子を配付して、２年間使用していただいているものでございます。

また、先生方が教えやすいようにということで、教師向けの手引書を作成しています。

今、紙で配付しているのですが、学校現場からは、全児童への配付作業や、学年をまたいで冊子を管理しなければいけないということが負担になっているという声が聞こえてきたり、単純に紙に印刷すると紙をそれだけ大量に使用するといった問題点がございまして、私

どもは、令和8年度中を目標として、環境副教材の電子化を検討しているところです。

これまで、こちらの環境副教材は、小学校の教職員の方々によるワーキンググループ会議を実施したり、全先生方に、任意ですけれども、グーグルフォームによるアンケートを実施したり、あとは、この教材には札幌市のいろいろな部局が関わっているものですから、そういった部局へのヒアリングを実施したところでございまして、これから本格的な検討や製作に向けて進んでいくところでございます。

次に、イの環境教育へのクリック募金についてです。

こちらは、専用ホームページの閲覧数に応じ、7社の協力企業からご寄附をいただき、それを基に環境教育教材を購入し、希望する小・中学校に寄贈しています。

本日ご参加の北海道ガス様も協力企業の一つとなっております。

昨年度は、1次募集の57校と2次募集の37校の中から抽選で選ばれた19校、合わせて76校に、手回し発電機、気体検知管、野菜の苗などを寄贈しました。

今年は93校の応募があり、寄附金額を大きく上回ったことから、抽選で67校に寄贈することになっております。

参考資料2として、寄贈された教材がどのように活用されたかの報告書がございまして、ご覧いただければと思います。

次に、ウのエコライフレポートです。

こちらは、夏休みや冬休みの前に、市立の小・中学校の全児童生徒に対して、家庭で取り組むエコ行動を選んで実践できるチェック表を配付するものです。

昨年度は、「未来の地球のために取り組もう！」をキャッチフレーズとして、節電や節水、リサイクルなどに取り組んでもらう内容としました。

取組率につきましては、4ページに表が載っているのですが、小・中学校全体で86.7%ということで、昨年度の夏休みよりも改善しております。

こちらは、各学校宛てに児童生徒の入力のお願いをした結果、特に中学校を中心に取組率の底上げがあったことが理由であると考えられます。

今年の夏休み分は、お手元に現物を用意させていただいたのですけれども、「未来の地球のために取り組もう！」というキャッチフレーズにしております。

ちなみに、エコライフレポートの裏面をご覧くださいと、子どもが描いたイラストが載っていますが、これは、後ほど、取組の(3)でお話しするのですけれども、サステナKIDS AWARDというイベントを新しく始めまして、そちらで優秀な賞を獲得した小学校のアイデアやイラスト、あとは、希望者だけですが、学校名や氏名を掲載しております。

一方、中学生向けをご覧くださいと、昨年度の小・中学生のものから明らかにデザインが変わっていると思いますが、中学生ということで、地球温暖化について深い学びができるように、デザインも大人っぽくして、コラムを詳細に書くなど、内容を一新したところでございます。

次のエの校外学習用バス手配についてです。

こちらは、環境に関する体験学習の場の提供を目的に、市内小・中学校を対象に校外学習用バスの手配を行っているものです。

令和6年度は、令和5年度にバスの台数や運転手の不足などから、応札するバス会社がいなくて入札不調になったという反省を踏まえて、学校への希望調査の時期を早めたとともに、新たに旅行業者を入札参加資格者に加えた結果、無事に落札となって、応募があった60校中、抽選に選ばれた27校が利用しました。

なお、抽選に当たっては、これも後ほど説明するのですけれども、こども環境コンテストの出場の動機づけとするために、前年度、コンテストに出場してくれた学校を優先当せんさせることといたしました。

今年度も無事にバスを確保することができまして、応募があった68校中、32校が利用する予定になっております。

参考資料4に昨年度の利用校からの報告書が載っておりますので、併せてご確認ください。

次に、オの学校での出前講座の実施についてです。

札幌市では、市民への情報提供と対話の一環として、市職員が依頼に基づいて地域に出向いて所管事業について分かりやすく説明を行う出前講座を実施しています。

最近では、地球温暖化や気候変動への関心の高まりによって、これらの講座の依頼が増えていまして、総合的な学習の時間などの学校での授業の一環として活用されています。

実績は6ページの表のとおりでございます。

件数の割に最近は人数が減っているのですが、この理由として、今までは、体育館などで全クラスの児童生徒が同じ話を聞くというパターンが多かったのですが、最近では、生徒がSDGsの目標の中から学びたいテーマを選んで、そのテーマごとに分かれて出前講座を受講するという少人数で授業を行うという学校が増えて、結果、1件当たりの受講者数が減少したことによります。

出前講座は、私たちがじかに子どもたちに環境のことについて伝えることができ、それに対する生の反応を見ることができる貴重な機会ですので、今後も続けてまいりたいと思っております。

次のカの内容に関する全園、全校の取組につきましては、教育委員会の村井係長から説明いたします。

○事務局（村井企画担当係長） カに関する内容について、教育委員会の村井から説明させていただきます。

6月25日を契機に、全ての市立園・学校がエコスクール宣言校として環境に関わる取組を重点的に見詰め直すさっぽろ子環境ウィーク期間を設定しております。

今年度も、6月12日に全園、全校に発出したところでございます。

また、現在、札幌市の教育の中では課題探究的な学習や自治的な活動を大切にしております。課題探究的な学習の中では、社会科や理科、総合的な学習の時間等で環境について学んだり、自治的な活動ということで、右下の写真にもあるのですが、パートナー校の小・中学校で、地域をきれいにしようということで、小学生と中学生が一緒になって清掃活動に取り組んでいる様子の写真も載せさせていただいております。

最近、パートナー校でこのような環境について考えるという取組を小・中学校で協力してやっている学校数が一昨年度と比べると昨年度は多かったように感じております。

また、今後も、さっぽろ子環境ウィークを大事にしながら、学校と一緒に取り組んでいく予定でございますので、よろしくお願いいたします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 次は、7ページです。

枠で囲ってあるのですが、説明した事業以外に、取組（1）学校などの教育機関等で行われる環境教育の推進に係る本市全体における実施状況を説明しております。

今日お手持ちの方は、環境教育・環境学習ガイドというものがあるかと思います。

こちらの最初には当課で実施している事業を中心に掲載しているのですが、6ページ以降に、市の各部局で実施している事業を一覧としてまとめておりまして、本市資料にはそれを集計したものを載せております。

（1）については、市全体で13事業が行われておりまして、やはり、学校ということで、教育委員会や環境局が中心に行っております。

主な例として、教育委員会のさっぽろ学校給食フードリサイクルを載せております。

次に、（2）「環境人材」の育成について、まずは環境プラザから説明いたします。

○環境プラザ（上杉係長） 環境プラザから、ア、イ、ウについてご説明をさせていただきます。

す。

まず、アの環境保全アドバイザー・環境教育リーダー派遣につきましては、市民団体、町内会、学校などに対して講師となるアドバイザー、リーダーを派遣する制度となっております。

今年度におきましては、アドバイザーが8人、リーダーは24人に登録をいただいている状況です。

主な派遣の実施先としては、川活動がメインとなっていて、7月から8月にかけての講師派遣が集中している状況です。

主に、小学校や幼稚園、保育園からの依頼、もしくは児童会館など、子ども向けの派遣が多くなっています。

どの主体におきましても、それぞれ講師の皆様と注意深く共有しつつ、実施内容について、安全管理に努めながら環境学習を進めている状況です。

実施後につきましては、それぞれ報告書をいただいているのですが、実施した主催者側から毎回好評いただいているので、活動の幅を広げることができたとか、保育園などでは活動後の日常でも取り入れることができるプログラムを提供いただけましたといった声があります。

また、専門家がいることによりまして、参加者の質問に即座に答えられて興味・関心を深めることにつながるといったお話もありました。

これらについては、事前の打合せにおいて、講師が主催者側に丁寧に聞き取りを行って、適切なプログラムを提供している結果だと考えております。

続いて、イのこどもエコクラブです。

こどもエコクラブにつきましては、環境プラザで、こどもエコクラブ全国事務局から委託を受けて札幌の事務局を担っております。

主な活動としましては、昨年12月に実施しているのですが、こどもエコクラブ交流会ということで円山動物園で開催しました。

参加したクラブからは、お互いの活動を知ることとともに、自身のクラブ活動の振り返りを行うことができたという感想をいただいております。

加えて、環境プラザでも主催するこどもエコクラブ、さっぽろあそエコ団につきましては、小学生向けに川や海といったフィールドでの自然体験活動を行っております。

昨年度につきましては、その取組の内容をさっぽろこども環境コンテストでも発表する機会をいただきまして、その中で最優秀賞をいただくことができました。

さっぽろあそエコ団の活動については、これらの活動を通じまして、子どもたちが学んだこと、体験したことを家庭に帰ってから家族に話すことで、家族内での関心が高まるきっかけにもなっていることが参加者アンケートから読み取れました。

子どもたちの直接的な体験が家族にとっての間接的な体験にもなっていることが、この活動の大きな意義の一つであると考えています。

続きまして、ウの指導者向け研修になります。

令和6年度につきましては、北海道立総合研究機構の森林研究本部と連携しまして、道産の未利用材である桐を切り口とした講話や、その未利用材を活用した昆虫標本づくりのパッケージプログラムの体験会を実施しました。

体験プログラムがもたらす効果についても講師よりお話をいただいたことから、参加者からは、実践機会をつくりたいと前向きな感想を聞くことができました。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長）引き続き、エの環境教育・子どもワークショップについて説明いたします。

昨年度は、令和7年2月22日と3月8日に、各日5か所ずつ、計10か所の児童会館に通う小学生を対象として開催しました。

ワークショップは、本部のメインファシリテーターから児童会館の各会場にオンラインでプログラムを配信し、各会場では現地のファシリテーターの誘導により、子どもたちが対面によりコミュニケーションを取るとともに、オンラインで各会場とも意見交換をするなど、オンラインと対面をミックスして行いました。

あわせて、環境教育に興味があり、ワークショップ等のスキルを身につけたい高校生、大学生などのユース世代の人材育成のため、希望する若者を対象に、ファシリテーター等の養成研修会を実施し、子どもワークショップの運営スタッフの一員として活動してもらいました。

お手元の参考資料5（※5と発言したが、正しくは7）に昨年度の実施概要が載っておりますので、ご覧ください。

次のオの教員に向けた研修につきましては、教育委員会の事業ですので、村井係長から説明いたします。

○事務局（村井企画担当係長） 教育委員会では、オの教員に向けた研修というところで、教員向けの専門研修を三つ主催しております。

一つは、学校教育に生かすSDGsの考え方について、もう一つは、環境教育へ役立つ施設活用、円山動物園で体験編と授業づくり編を行っております。

昨年度は、先生方の延べ人数として、130人以上がこの三つの研修に参加しております。今年度は、8月7日の木曜日に、SDGsの考え方についてという研修をちえりあで、8月21日木曜日には円山動物園に実際に行って、ガイドツアーを通して事業の説明や、施設を理解して学習に生かしていくという取組を行う予定です。

先生方も、実際に動物園に行って体験しながらやることで、子どもとどうやって関わるか、子どもにどういうことを知ってもらおうかということを考えることができ、とても有意義な時間になっているという振り返り等もありますので、今年度も、暑い中にはなるかと思うのですけれども、先生方と一緒にやっていく予定です。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 最後に、（2）の本市での実施状況です。

こちらは専門家の派遣や人材育成という性質もあるのでしょうけれども、実施事業は環境局の4事業と限られております。

例として、さっぽろ気候変動タウンミーティングという主に大人を対象としたワークショップを載せております。

（1）と（2）についての説明は以上です。大沼会長、議事をお願いいたします。

○大沼会長 （1）は、学校に限定しませんが、学校教育を中心としたところ、（2）は環境人材の育成というところでした。

順不同で、どこからでも、どなたからでもご発言をいただいて結構ですけれども、いかがでしょうか。

○欠委員 3ページのエコライフレポートに関わってです。

細かいことで申し訳ないのですが、参考にしていただきたいと思います。

小学生用の2種類、子どもの立場で見たときに、地球温暖化によって何が起きているかの右側に「お米や野菜が採れなくなる」「今までどおりに育たなくなっています」とありますが、暖かいのになぜ駄目なのかと思ってしまったりもするのではないかと思いますので、何か一言、ちょっとでもその理由を加えておいたほうがいいと思います。

単純に、暖かくなっているから採れるのかなと思うと思いますので、そのあたりはちょっとだけ工夫をしてはどうでしょうかというのが1点目です。

もう一点は、中学校のエコライフレポートですが、表面の「地球温暖化の影響を最小限に抑えるために」の説明はとてもいいと思います。子どもたちの思考に触れていて、投げかけるという意味で、とてもいい表現をされていますので、このまとめの中で、特にここは強調したいといえますか、子どもに注目をしてほしい部分は、濃いめに印刷するといえますか、大きめに

してあげていいのかなと思います。

特に後半の「一人一人の小さな行動や選択」や、一番最後の「できることはすぐ近くに」とか、目にする子どもたちに何か訴える部分があるといいと思います。

ずっと長く同じようにして並べても、読みづらいというか、取っつきにくいところがあるかもしれませんので、子どもがぱっと見て、迫るものがあるといいですか、そういう表現があったらいいと思います。この文章自体はとてもいいと思います。

○大沼会長 エコライフレポートについて2点ございました。

今のことにつきまして、事務局から説明等がありましたらお願いします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 貴重なご意見をいただきましたので、次の冬のエコライフレポートで改善、工夫させていただきたいと思います。ありがとうございます。

○大沼会長 今日の資料は夏休み用ですね。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） そうですね。学校にはもう配ってしまっていますので、冬休みから改善させていただきたいと思っております。

○大沼会長 この夏休みのもので、もう配ってしまっているの、次以降にさせていただきたいということでした。ご理解をいただければと思います。

ほかにありませんか。

○高橋委員 今、エコライフレポートのお話がありましたので、私も伺いたいと思います。

今回、ここに初めて参加するに当たって、過去のエコライフレポートを拝見させていただいて、これまでの皆さんの協議や、いろいろな試行錯誤がすごく反映されているなという点と、今回、新たにサステナKIDS AWARDの受賞されたものがイラストとともに掲載されているのは、すごくいいなという感じがしました。

そこで、1点気になったのは、1年生から3年生の低学年用のレポートで、例えば、「気候の変化に適応できず」と、ちょっと難しいかなという表現がありました。去年のレポートを見ると、寒かったり、暖かかったり、暑かったりというような、もうちょっと簡単な表現が使われていたと思うのですが、何か協議があってこういう表現に変わったのか、お聞きできればと思いました。

私どもも低学年向けに授業等をする際に用語の使い方は非常に気を使うので、参考までに聞かせていただければと思いました。

○大沼会長 1年生から3年生の低学年用ですね。事務局からご説明を願います。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 確かに、ご指摘いただいたとおり、「適応」という言葉は1・2年生にとっては難しいと思っています。

低学年につきましては、親御さんと一緒にレポートを見る機会も多いと思いますので、必要に応じて、お家の方が補足はしていただけたらと思うのですが、私たちも低学年の方々でも見やすいように工夫していきたいと思いますので、いただいたご意見につきましては次のレポートから反映させていただきたいと思っております。

○大沼会長 エコライフレポートをつくるときに、どこで協議されているのですか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 市内部になります。

○大沼会長 環境政策課内部ですね。

事前に学校の先生方とすり合わせをするプロセスはないのですか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 教育委員会にはご覧いただくようにしています。

○大沼会長 毎年、エコライフレポートの文言や内容について、非常に多くの委員からごもっともなご指摘をいただくので、その確認がどこかでされているといいなと思いました。

以前からいらっしゃる委員は、前回とそう大きく変わってはいないと思われるかもしれませんが、特に、教材はオンライン化していくということで、既にホームページに載せたりしてい

るということですが、今回から参加いただいている野田委員、何かあればお願いいたします。

○野田委員 エコライフレポートは、私が教育委員会にいたときに担当として一緒につくってきましたし、中身にも大体関わってきました。

私は現場に戻って6年になるのですが、その前の8年間、教育委員会にいたので、エコライフレポートがこのようになる前から見ていて、ずっと脈々と作られてきたのだなと思っていました。

あの頃からあったのは、クリック募金とかバスの対応です。変わらず続いているということは、本市の環境に向けての取組としては、機能しているのだなという印象を持っていました。特段、あの当時から新たなものが生まれているということではなくて、進化しながら今の取組に合わせているのかなと感じていました。

そんな感想です。

○大沼会長 非常にポジティブに総括してくださり、ありがとうございます。

ただ、クリック募金はすごく昔から始まっていて、もう20年近く前だと思います。当時、インターネットが普及し始めたときに非常に画期的であったと思うのですが、逆に、クラウドファンディングができていて今はちょっと時代遅れ感があります。毎年、もうちょっと今の時代に即してできないかと申し上げていますが、今回というか、今期でしょうか、システムの話があって予算が大変だという話は伺っていますので、そういったところもあるでしょう。

クリック募金は北ガスも最初からずっと出資していただいています。酒井委員から何かありませんか。

○酒井委員 特にありません。

○大沼会長 それでは、ほかにありませんか。

○坂本委員 エコライフレポートについて、取組状況の表を見るだけだと、ちょっと下がりぎみなのかと思うのですが、以前は、子どもたちのアクションでどれだけのポジティブなインパクトがあったかという評価もついていた気がするのですが、その結果はどうでしょうか。

○大沼会長 取組率の結果ですね。事務局からご説明はありますでしょうか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 取組率の結果についてということでよろしいですか。

○坂本委員 取組率の結果ではなくて、指標がCO₂の削減だったかどうか、記憶は正確ではないのですが、成果がどうかというのがどこかに出ていた気がするのです。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 参考資料3に、子どもたちによるCO₂削減量という表は載っていると思っています。

参考資料3に載っているのは、小学生と中学生全体の削減量でして、各学校には、どこどこ小学校、どこどこ中学校はこれだけCO₂を削減しましたという認定証をお送りしております。各学校の取組の励みにしてもらっております。

このほか、小学校の高学年以上につきましては、自分たちで取組を自由に書いていただく形で取り組んでもらっていて、これは参考資料3の裏面ですが、皆さんが考えて取り組んでいるというところで、子どもたちに精力的に取り組んでもらって、認定証を通じて学校で取組を実感されているのではないかと考えております。

○坂本委員 資料3の何ページにその成果の数字が出ているのですか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 資料3ではなく、参考資料3の2番です。

○坂本委員 分かりました。ありがとうございます。

○大沼会長 CO₂削減量と定性的にこんな取組があったということを経験として取りまとめ

ていただいているということです。ありがとうございました。

ほかにありませんか。

○欠委員 1点、お願いしたい要望です。

以前の会でも私が申し上げたのですが、自由記述欄は大事だと思っていて、結果を見ても、学年が上がっていくと自由記述欄が注目されていくようになっていくようですが、せっかくの皆さんが参考にできる、そして、交流し合える部分ですので、ちょっとした抜粋ではなくて、いろいろな意見をここに出していただきたい、今度からはそういうことでお願いしたいと思っています。お願いします。

○大沼会長 今後、載せていただきたいということですが、事務局はよろしいでしょうか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） ただいまのお話は、参考資料3の裏面の4のことかと思います。こちらは幾らでも載せられますので、可能な限り載せていって、こんな取組をやっていたという報告にまとめたいと思っています。

○坂本委員 もう一つ何ってでもいいですか。

エコライフレポートについては、毎回ご報告をいただいて、こういう成果が出ているということも共有されていると思いますし、もっとほかの項目も入れられないのかという意見もこれまで何度も出ていたと思うのですけれども、何かご議論はあったのでしょうか。

○大沼会長 項目の6個という部分かと思うのですけれども、事務局、いかがでしょうか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） こちらは、これまでも推進会議でいろいろと意見をいただいていますので、そちらをできるだけ反映するようにしています。

例えば、小学生用の裏面の自然の中に出かけるというものも、前回ご意見をいただいていた記憶がありますので、その意見を踏まえて入れています。

この六つの選定方法ですけれども、毎回、私たちも、いろいろな項目がある中でどれを入れようかと頭を悩ませているところがあります。

といいますのも、各学校にCO₂の削減量を認定証として送らなければいけないのですが、どうしても二酸化炭素の削減量で換算できる取組を選ばないと認定証としてお出しできないので、まず、そこが絶対条件になるため、そこである程度限られてしまう部分はございます。

あとは、これも当時の推進委員会のときにご意見をいただいたのですけれども、お家の状況によって取り組める内容と取り組めない内容があるということです。以前にいただいた意見では、いわゆるウオームシェアという一つの家でみんなで温まるということも、できる家庭とそうではない家庭があるのではないかというご意見をいただいて、そういったものは外させていただきます。

私たちとしては、検討した上でこの六つを選定させていただいているのですが、何かご意見があれば、できるだけ反映させていただきたいと思っています。

○坂本委員 確かに、数字で評価するとか、それを承認するということになる、今定められているような項目に限定されてしまうということは何となく想像するのですけれども、子どもたちのできるアクションとして、いろいろな幅があったほうがいいと思います。

これはぜひ検討していただきたいのですけれども、食べ物に関して、地域でつくられているものとか、環境に配慮して生産されているものを選ぶというのは、ぜひ入れていただきたいです。

仮に子どもたちの活動でできないにしても、そういうことも環境を守ることにつながるのだなという理解になると思うので、ぜひ加えてください。

○大沼会長 ご要望ですが、地産地消とか環境に配慮した食べ物ということも大事であると。CO₂換算は大変な気もするけれども、できなくはないと思うので、今後ご検討をいただけたらと思います。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 地産地消に関しましては、今回は入れていなかった

たのですけれども、入れている回もございますので、ぜひ次の機会には入れるようにしたいと思っております。

○坂本委員 よろしくをお願いします。

○大沼会長 ほかにいかがでしょうか。

○先名委員 私から、報告というか、ご参考までの情報で、6ページの教育委員会で書いてあります環境に関する全園、全校の取組というところで、さっぽろっ子環境ウィークというところに対して、今、新川のエリアの町内会、小学校、中学校、そして、市立の高校を含めて清掃活動などを継続しています。そして、そのかいあって、昨年度、夜の桜を見る期間に、全国レベルの桜の名所となって、ネットでもご案内されるぐらい上位の桜の名所に上がってきています。

それを踏まえて、子どもたちも、自分たちが環境を守り、清掃活動などで関わってきた川が全国レベルに有名になったという報告を受けて、今、町内会も含めて大変盛り上がっているような状態です。そのような心の種が、今やっと、ちょっとずつ芽が出てきたかなと思っています。

今、環境をきっかけに地域が大変盛んになってきているという情報です。

○大沼会長 情報提供をありがとうございます。

新川通の桜並木のところの清掃活動ですね。私もニュースでいろいろと拝見しましたが、本当に小・中学校、高校、地域の方と、いろいろな方々がまさに協働して取り組んでいる好事例ということで、市としても、もっと胸を張って、いろいろなところへの発信で後押しをしていただけるといいかなと思います。

では、今日はほかにもありますので、次に進ませていただきます。

残りの(3)と(4)の説明を事務局からお願いいたします。

○事務局(谷内環境教育・啓発担当係長) それでは、(3)の環境教育、環境学習の場と機会の充実になります。

資料3の10ページになります。

まず、アとイにつきましては、環境プラザの事業でございますので、環境プラザから説明いたします。

○環境プラザ(上杉係長) 環境プラザから、ア、イについてご説明をさせていただきます。

まず、学習支援等の部分につきましては、こちらは主に、施設見学のことについて書いております。

昨年度につきましては、学校ですとか保育園、児童会館等の団体を中心にワークショップを含めたツアーを実施しており、環境問題について考えるきっかけになったとか、電気の仕組みをもっとよく知りたい、ソーラーパネルのことも知りたいといった感想や質問を参加する児童から聞くことができました。

現在の申込み状況は、昨年度を上回るペースで、7月現在で27件ほどの申込みを受け付けている状況です。

続きまして、イの各種講座等の実施につきましては、普及啓発の一環で市民を対象に様々な活動を行っておりますが、昨年度につきましては、北海道大学の学生が活動する北大森林研究会や、市民活動団体として主に活動されている楽子森などと連携して、木工に関連したワークショップを実施しました。

ほかにも、道東にあります猛禽類医学研究所のスタッフによる猛禽類、鳥の保護活動とか研究員の取組に関する理解を深める機会とした講座を実施しております。

木工のワークショップでは、主に子どもから親子での参加があり、木の材質や質感に触れて楽しむ機会とすることができ、参加者からも時間が足りないと言われるほど、あっという間に時間が過ぎる満足度の高い体験となりました。

また、猛禽類医学研究所の講座につきましても大変好評で、鳥の羽を通して生態とか保護に関心が広がる機会となりました。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 次に、ウのさっぽろこども環境コンテストです。

小・中学生が日頃、環境のために取り組んでいる活動を発表するコンテストとして、平成20年度から実施しております。

昨年、前はエルプラザの公共4施設において、会場でのステージ発表を基本としつつ、当日の児童生徒の引率が難しい学校などについては、発表の様子を事前収録して、当日、会場で公開する方法で実施しました。

参考資料8に、各出場団体名と発表の内容について簡単に紹介させていただいております。

また、参考資料8をめくっていただきますと、令和7年1月22日に実施したさっぽろこども環境コンテスト2024市長報告会のことが書かれております。

こちらは、コンテストで最優秀賞を受賞した学校、団体に、秋元市長の前で発表していただきまして、ゲストで石澤副会長にもご参加をいただいたところでございます。その様子は新聞やテレビなどでも紹介されました。

また、資料の11ページに書いてありますけれども、長年にわたって環境の取組を継続して実施して、その成果を毎年コンテストで発表してくれた旭山自然調査隊と、米里中学校科学部の2団体につきましては、先月6月5日に環境保全活動功労者ということで北海道知事より表彰されましたので、併せて報告させていただきます。

次に、エの若者との共創プロジェクト「サステナKIDS AWARD」です。

こちらは、初めての取組になりますので、ちょっと詳しく説明させていただきます。

渋谷を拠点に活動する一般社団法人SWITCHという団体がございまして、令和5年4月のG7札幌の会合がきっかけで若者との共創プロジェクトということで連携することになりました。

そのプロジェクトの一環として、昨年度に第1回のサステナKIDS AWARD 2025札幌という形で開催したものです。

どういうものかといいますと、参考資料9に報告書がついていますが、札幌市内には環境に配慮しながら活動している企業、団体がたくさんあるのですけれども、それぞれ自分たちの活動があまり一般的に知られていないとか、活動をよりよいものにするにはどうしたらいいかといった悩み事を持っているのです。その悩み事をミッションという形で子どもたちに提示して、子どもたちがそのミッションを解決するためにはどうしたらいいのかという解決策を動画、漫画、ポスターなどの形にして応募してくれるというものです。

各ミッションの提供企業・団体が自分のミッションの応募作品を審査して、優秀作品については、それぞれの企業、団体にちなんだ賞品を差し上げています。

私ども札幌市からもミッションを提供しておりまして、先ほどのエコライフレポート裏側の子どものイラストも、教育委員会のミッションの優秀作品に対する賞として掲載しているものです。

また、ミッションに関係なく、全応募作品に対する全体賞について、秋元市長を含む特別審査員に審査をいただき、5作品の受賞がありました。

応募総数658作品の中から、これらのミッション賞と全体賞を受賞した47作品は、石屋製菓のご協力で、3月15日に西の町いこいの駅Route148で行った表彰式で表彰いたしました。

資料の写真にあるとおり、秋元市長やテレビ父さんなどにも参加をいただいて、大変な盛り上がりでございました。

今年度も、第2回のサステナKIDS AWARDを実施すべく、準備を進めているところです。

次に、資料の（３）の環境教育、環境学習の場と機会の充実に関する本市での実施状況ですが、こちらは、各種イベントとか講座とか美化活動など、分野が多岐にわたっていますので、１１２事業と一番多く、たくさんの部局で実施しているところです。

例として、円山動物園での教育推進事業、公園などにおける自然観察会、各地域で行われている美化活動への支援ということを挙げさせていただきました。

引き続き、資料１３ページの（４）普及啓発のための情報の発信、広報と行動の後押しについて説明いたします。

最初のアとイにつきましては、環境プラザから説明いたします。

○環境プラザ（上杉係長） 環境プラザから、ア、イについてご説明させていただきます。

まず、アの環境プラザのホームページ等ですが、こちらは、環境プラザで運営しておりますホームページ上での情報提供となっております、件数につきましては、ホームページにアクセスされた件数を掲載しております。

その他、SNSとしては、フェイスブックやInstagramを活用して投稿しており、昨年度は２００件以上の投稿をして、それぞれ市民に向けたアプローチを行っております。

イの環境中間支援会議・北海道の取組についてですが、こちらについては、環境中間支援会議・北海道と組織運営に携わりまして、市民への情報提供やアドバイス、コーディネート等のサポートを行う会議を行っております。

コロナ禍で活動がやや少なくなっているのですが、会議は定期的に実施しており、今年度以降につきましては、会議の中で主催するような事業を進めていく方向で話をしております。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 続きまして、ウの環境広場さっぽろ２０２５についてです。

環境広場さっぽろは、子どもたちを主たる対象に、環境教育を目的とした「みらいを想う総合環境イベント」になっております。

昨年度は、令和６年８月２４日、２５日の日程で、大和ハウスプレミストドームで開催しました。

期間中の来場者は１万８，１１１人で、１８７の企業、団体に出展いただきました。

資料には、これまでの来場者数などの表がありますので、ご参照ください。

今年度は、もう来週になるのですが、７月２６日土曜日、２７日日曜日に同じ大和ハウスプレミストドームで開催する予定になっておりまして、私どもも鋭意準備中ですので、ぜひ足をお運びいただければ大変うれしく思います。

次に、環境教育・環境学習ガイドの発行です。

こちらは、先ほどから皆様にご覧いただいていると思うのですが、基本方針に基づいて、環境問題の理解促進や環境保全行動の推進に向けて、札幌市の各部局が行っている取組をガイドとしてまとめたものです。

また、これは補足になるのですが、前回の推進委員会のときに、ガイドの１ページ目に基本方針の表が載っていて、左下の環境教育、環境学習が対象とする分野の中の②に「低炭素社会の実現に関すること」と書いてあるのですが、前回、「低炭素」を「脱炭素」にしてはというご意見をいただきました。

前回の推進委員会の後、そのご意見を踏まえて検討したのですが、基本方針の文言自体を直すのは、基本方針の上位計画の札幌市環境基本計画など、関係するほかの計画の関係から難しいという結論に至りまして、その代わりとして、ガイドに脱炭素に関するコラムか何かを入れる予定です。ページを開いたときに、私たちは脱炭素のために取り組んでいるということが見える工夫をしたいということで、現在、作成している最中ですので、ご了承ください。

最後に、(4)の本市の実施状況ですが、これは情報発信や広報活動が中心で、全部で8事業ございます。例として挙げた広報さっぽろでは、環境に関する紹介を定期的に行っています。今、こちらのスクリーンに2025年6月号が映っていますけれども、こちらでは、ごみの捨て方のマナーなどについて紹介したところです。

説明は以上です。

会長、よろしくお願いいたします。

○大沼会長 ただいまの説明につきまして、どこからでも結構ですので、ご質問、ご意見等があればお願いいたします。

○中村委員 13ページの(4)普及啓発のための情報の発信、広報と行動の後押しのアの環境プラザホームページ等について、3点伺います。

1点目、令和6年度のホームページのアクセス件数が前年度比で減少しておりますが、考えられる要因がございましたらお教えいただけますでしょうか。

2点目、来館者数は前年度に比べ増加傾向にあるのでしょうか。

3点目、フェイスブック、Instagramでの投稿や情報発信を、先ほど、200件以上行っているとおっしゃっていましたが、その反応をお聞かせいただけますでしょうか。

○大沼会長 質問を整理していただき、ありがとうございます。

3点について、環境プラザからお願いいたします。

○環境プラザ(上杉係長) まず、環境プラザのホームページのアクセス数が減少傾向にありますが、原因を調査している段階で、はっきりとした要因が分かっておりません。

コロナが明けて事業数が増えてきているので、本来であればアクセス数が増えてきてもいいところだったのですが、こちらにアクセスが少ないのは、皆さんはSNSのほうでリンクをシェアされていて、そこに直接つながっている可能性もあると思っています。ホームページを経由してからのフェイスブックやInstagramへのアクセスではなくて、直接そちらにつながっている可能性もあるのかなと考えています。

今は、ハッシュタグから興味・関心のあるところにつながっていくというアクセス方法がありますので、もしかすると、そちらがメインになってきているのかなと考えています。

加えて、来館者数については、今、コロナ前に比べると減ってはいるのですが、コロナ明けから見ると大分増加している状況です。

展示コーナーの人数が主なところになりますけれども、少ない時期は1,200人程度だったのですが、今は2,800人から3,000人近くに増えていきますので、足を運んでいただく機会としては、小さなお子様方に来ていただく機会とか、パネルの常設展示がありますので、そちらに興味・関心を持ってきていただいたり、ワークショップも実施していますので、そういった取組の中で人数が増えているような状況です。

最後に、SNSへの反応につきましては、今、手元にそちらの情報がないので、また次の機会にシェアさせていただければと思います。よろしくお願いいたします。

○中村委員 ありがとうございます。

私から1点意見がございます。小学生の女の子が「森のデカゴラス」という木製知育玩具に挑戦しているInstagramのリール動画を拝見いたしました。

こういった環境プラザの体験型展示や、キッズスペースもあって遊べて学べる施設であることを動画などで効果的に発信していけるとよいのではないかと思います。

○環境プラザ(上杉係長) 今、静止画での写真のアップが主なのですが、動画も活用していきたいという話は昨年度の議論の中にもありましたので、今年度、ぜひそういったところも取り入れていきたいと思っています。

ありがとうございます。

○大沼会長 記憶違いだったら申し訳ないのですが、環境プラザの運営協議会で、フェ

イスブック、Instagramにダイレクトに来ていて、こっちのほうは数が増えているという話を聞いた気がします。後日、その数字をご確認いただいて、こちらにもフィードバックをいただけるとありがたいです。

また、今、検討中ということだと思いますが、動画、主にユーチューブなどだと思うのですが、今どきの若い方にはフェイスブックはもう古いと怒られるので、動画もぜひご検討をいただければと思います。

○環境プラザ（上杉係長） 参考にさせていただきます。

○大沼会長 ほかにございませんか。

○欠委員 先ほど、最後に説明がありました環境教育・環境学習ガイドについて、以前、意見を述べさせていただいたのは私でした。これをぱっと開いたときに、低炭素社会、いや、違う、脱炭素としたほうがいいねということを述べさせていただきました。

その後、結果もお聞きしまして、基本方針が出来上がった段階ではそうだったので、あとは、中身でいろいろと調整していくということで、私もそれでいいと思うのですが、この基本方針のところで、低炭素の実現というような表現が出てきたのは基本方針ができたときのものであり、この表現をそのままにしておくのであれば、どこかに注意書きなどで、いつにつくった基本方針だよということに触れておけばいいと思います。

これだけだと、新しい基本方針だけれども、やっぱり古い表現のままだということになってしまう気がしますので、いつつくったものです、基本方針はいつ確立したのですということがちらっと分かるようにしておけば、あとは、方針に従い、今では脱炭素のほうに向かっているのですよということに触れるのはいいと思います。

○大沼会長 事務局、こちらはご対応可能でしょうか。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） ガイドにつきましては、現在、ちょうど作成中でございまして、まだ原稿を整えている最中ですので、いただいた意見に基づいて検討させていただきたいと思います。

○大沼会長 環境教育・環境学習の基本方針ができたのが2019年でしたね。多分、その親になる環境基本計画が2018年頃だったと思うのですが、そのときの文言を変えられませんというのも融通が利かなさ過ぎだと思いますし、これはうろ覚えですけども、環境基本計画をつくるときに、不断の改善をするみたいな文言がどこかにあった気がします。記憶違いだったらすみませんが、単に中間で達成できたかどうかを定量的に評価するだけではなく、これでいいのかという見直しも柔軟に、不断にするみたいな文言をどこかに入れようという議論をした記憶があります。ですから、これに決まったから20年間はこれでいきますではなくて、時代に即して柔軟に対応していただけるといいかなと思いました。

ほかにいかがでしょうか。

○三浦委員 これは個人的な話ですが、今年、勤務先が替わりまして、4月に新しく赴任する学校に行きましたら、環境副教材の令和4年度版と令和5年度版が、配付されないまま、空き教室の一角に積まれていたのです。ちょうどその頃、私は作成に関わっていたので、裏を見たら、ちゃんと自分の名前が書いてあるんですね。あっ、配られていないのかと思いました。

どの学校もホームページにエコスクール宣言シートをアップすることになっているのですが、本校のホームページを見ましたら、2020年度で止まっているのです。そういう学校があるのかということを知って、一教員の力は微々たるものかもしれないけれども、最低限、配ることはできるだろう、ホームページにそういうものを作成してアップすることぐらいはできるだろうと思ったのですね。

私は、前回の会議のときに、教員一人一人の意識改革が必要なのではないかという話をしたと思うのですが、全ての学校で教員一人一人の意識をブラッシュアップしていかないと、せっかくいろいろな知恵を出し合いながら考えていたものが実になっていかないなと考え

ていました。

その難しさを考えつつ、そんな学校から参加させていただいて大変おこがましい気持ちもありますが、変えていかなければいけないという感想を持ちました。

○大沼会長 微々たるものとおっしゃりますが、校長先生（※校長先生と発言したが、三浦委員は教務主任であり、管理職には該当しない）なので、それなりの学校での影響力は期待されるかと思います。現場のご苦勞は本当に拝察いたしますが、何とかしていただければと思います。

能登委員はいかがですか。

○能登委員 今のお話に関連しますと、本校の低学年の先生から、1年生から2年生に上がるときに、この本を転校する子が持って行ってしまって1部足りないのだという話があって、では、僕が持っているからあげるよと言ってあげてしまったのですけれども、そんなふうになんと意識を持っている先生もたくさんいることも知っていただけるとありがたいです。

それから、こちらの事業でたくさんの講師の方を派遣していただいたり、バスを出していただいたり、学校では大変助かっています。大変ありがたい事業ですので、これからも継続していただけると助かるなと思っています。

先ほどあったサステナKIDS AWARDの第1回が行われたということで、次が第2回になっていくのかなと思うのですが、中身を見ると、とても楽しい作品がたくさんあって、こういったものをもっともっと表に出ていくといいなというふうに思ったり、そういったところを子どもたちにも宣伝をして、みんなで取り組んでいけるような雰囲気が出てくるといいなと思いました。

今後、チラシなどもまた配られるかと思うのですが、そういったものを活用して子どもたちにも知らせていきたいと思いました。

○大沼会長 今回、これを初めて知ったのですが、着眼点がいいなと思いました。大人とか企業が困っているものを子どもたちが解決するという発想がすごくいいと思うので、ぜひこれからもどんどん盛り上げていただけるといいなと思います。

松田委員、いかがでしょうか。

○松田委員 サステナKIDS AWARDについてですけれども、いいなと思っているのですが、応募形式がオンラインで申し込むとあります。これは、個人個人が申し込むということでよろしいのですか。学校を通さないということですね。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） こちらは、やり方がいろいろありまして、もちろん個人で申し込んだ方はオンラインで申込みをするのですが、今回、初めての開催ということで、一般社団法人SWITCHがワークショップに行き、例えば、児童会館に行き、回ったり、イベントのブースに出展して、そこで応募作品を集めてということでやっています。もちろん、オンラインで受け付けた部分もあるのですが、ワークショップで取りまとめて応募してもらったというケースもたくさんあります。

○松田委員 では、学校に下りてくるものではないということですね。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） そうですね。初回は、初めてだったということもあって、特定の学校にお伺いして宣伝をお願いしたり、特定の児童会館に行き、ワークショップをしたりということをしていました。

今回は、1回目をもうやったということもありますので、学校に個別にという形ではなくて、広く宣伝して応募を集める形になるのではないかと考えていますけれども、まだ具体的なことは決まっておりません。

○松田委員 なるべく学校に降らないようにしていただけるといいかなと私は思っています。

もう一つ、学校の件で、エコライフレポートについてですけれども、3ページのウの1行目を見ると、子どもたちが声かけ役となって家庭におけるエコ行動を促す取組とあるので、これ

は家庭に対して働きかけるような活動なのかと思っていますが、受入先が学校になっていますし、集約先も学校になっています。学校で集約して終わっているのならいいのですが、それが家庭で効果があったのかどうかという効果測定のようなことはどのくらいやられているのか。

また、もし学校と連携させたいのであれば、学校教育活動の中でどのように絡んでいっているのかということも事業評価としてはあると思います。

今、その辺が見えなかったのも、家庭での効果と、もし学校で活用するならば学校での活用をどのようにするのかというところの事業評価はどうなっているのかということをお聞きしたかったです。

○大沼会長 家庭でということと学校でということですが、事務局からお答えがあればお願いします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） まず、家庭につきましては、私たちがエコライフレポートを各ご家庭に配付させていただいて、例えば、それを冷蔵庫とかに貼って一緒に取り組んでもらうというふうにして、各家庭でこういった取組をやっているかということをご家庭での事情によると思っております。

夏休み・冬休み明けに集まったものにつきましては、子どもたちにタブレットで入力してもらって、取組の量に応じて、二酸化炭素をこれだけ削減しましたという形の認定証をお出ししていますので、各学校でご活用いただいているのではないかと思います。

○松田委員 もし家庭での促しを図るのであれば、それが家庭でどれぐらい促されたのかとか、どんな成果が上がったのかというところが家庭から上がってこないこの事業の評価ができないと思って伺いました。そういった評価が必要ないというのであれば、構いません。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） もしそれをやるとすれば、例えば、子どもたちが取り組んだ活動を入力したときにアンケートを取るという方法はあるのではないかと思います。それを取りまとめるのも学校でするので、学校の負担になるかどうかという部分もございますが、こちらで検討しながらやっていく必要があるのではないかと思います。

○松田委員 学校になってしまうと、結局、学校の負担が増えてしまうので、そうすると、この事業自体がどうなのかということを検討し直す必要もあると思います。平成19年から始まっているので、結構たっていますから、そろそろ一回見直して、この事業自体にどんな効果があるのか、どんな役割を果たしているのかというところがしっかり測定されていないと、この後、また続けるのはどうなのかというところがあると思います。

学校現場でそれが活用されているのであれば効果があると思うのですが、果たしてそれがどれぐらいされているのかということも分からなかったのも、もしお分かりでしたら聞きたいと思いました。

○大沼会長 補足はありますか。

○事務局（飯岡環境政策課長） 家庭での活用と学校での活用というご質問でしたが、この場でも、データで配ったほうがいいのではないかと、紙の意義とか、いろいろな意見がありました。今回もあえて紙を使わせていただいているのは、家庭において、何をしたらいいだろうねということを話し合う材料になると考えたからです。

おかげさまで、お話があったとおり、平成19年から始まって結構定着していると思っておりますので、夏・冬休みの宿題の一つにカウントしていただいているような位置づけになっていると思っています。

ですから、親御さんが中心になると思うのですが、紙にすることによって家庭でみんなで見ていただいているかなという意味で、私どもとしては一定程度の意義は感じています。もちろん、見直しは必要かと思います。

また、学校においてということでしたけれども、それも先ほどご説明したとおり、学校単位

で、このぐらいの規模のCO₂削減につながりましたという認定証をお送りすることによって、その学校による子どもたちが一丸となってここに向かってという形で見ていただけるような仕組みも構築しているところです。

ただ、当然ながら、事業は適宜見直していくのが当たり前だと思いますので、ご意見をいろいろと拝借しながら進めてまいりたいと思います。いろいろなご意見をいただければと思います。

○大沼会長 松田委員、よろしいでしょうか。

○松田委員 効果があるものは続けられればいいと思いますし、ないものはもう一回見直すということが必要だと思います。

これはお金もかかっていますので、そこは十分に留意しながら、来年に即ということではないかもしれませんが、再来年を見越しながら、来年、今年でこの事業が本当に効果的なのかどうかというところを評価していかなければいけないのかなという気がしました。できれば、評価結果をこの場で出していただけると、私たちも見えるので、ありがたいと思っていますが、いかがでしょうか。

○大沼会長 口を挟ませていただいて恐縮ですけれども、環境学習、環境教育はものすごく難しく、非常に熱心なお子さん、熱心なご家庭、熱心な学校は本当にどんどんいろいろなことをやっていた一方で、放っておくと何もしなくなってしまう層が実は相当数あります。

昔、とある小学校にご協力をいただいたときに、何もしないと、いろいろなことをしなくなるとか、意識が下がっていくのですね。学校は、やり続けてやり続けて、やっと下がらないで横ばいなのですね。本当に熱心なところは、学校ではなくても、こどもエコクラブだったり、さっぽろこども環境コンテストだったり、先ほどのサステナKIDS AWARDだったり、どんどんいろいろな活動をしてくださるので、そういうのはいいのですけれども、放っておくと何もしない層や家庭にリーチアウトできるチャンネルというのは、学校以外はなかなか難しいところがあります。学校のご負担をすごく分かった上で言うので心苦しいところもあるので、すけれども、全てにリーチアウトできるチャンネルとして学校というのは存在していると思っています。

特に、エコライフレポートは非常に高い取組率を維持できているということ自体、一つの成果だと思っています。放っておいたら本当に何もしなくなるとか、コロナ禍でオンライン入力にしたら、がくっと下がったけれども、各学校で工夫していただいてまたちょっと回復しているとか、この高い取組率が維持されていること自体、一つの成果として言っているぐらいではないかと思っています。やはり、全てのご家庭にリーチアウトできるチャンネルは何か残したらいいと思っているという個人的な意見です。

余計なことを言いました。すみません。

○先名委員 今の件で、保護者の視点からの言葉になるのですけれども、もし保護者の意見が欲しい場合は、配付するレポートに、保護者のサインか、保護者のコメントか、もしくは、収集するのが大変であれば、同じように2次元コードで保護者にアンケートを取れるようなものを追加で入れてもらってはどうかと思います。

今、時代的に、スマホが子どもたちに当たり前に普及するようになってきて、家庭内の会話が減少したという一つのデータが出ていとお伺いしたのですけれども、子どもとの共通の会話のきっかけのツールとしても使っていただけるように、知行合一という言葉がありますけれども、知識を得るだけではなくて、こちらを実践して本物を得るような、ご家族と一緒にぜひ探求しながら自分たちで物にさせていただくようなツールに発展していけばいいのかなと感じておりました。

○大沼会長 本当におっしゃるとおりだと思います。

今、保護者アンケートはいろいろなツールがあると思うのですが、学校の先生方がどのぐら

い負担だとか負担ではないというのはお分かりになりますか。

○三浦委員 以前、紙でやっていた時期は、下半分を切り取って、それをこっちで保管しておいて、上半分は家庭に持ち帰って、始業式にそれを持ってきて、下の部分をもう一回配ってチェックをつけてと、すごく手間がかかっていました。しかも、上の紙が休み中になくなったよとか、下半分を保管していたはずなのにどこかへ行ってしまって必死に探す先生がいるとか、なかなか大変な状況でした。ただ、フォームでの入力となったときに、一気にそういう負担がなくなって、今はすごくスムーズに取り組めるようになったなと感じています。

○大沼会長 ありがとうございます。

ここですぐに結論というわけにいかないでしょうし、できるだけ負担が少なく、でも、うまく生かせるようにというのが松田委員のご発言の趣旨かと思いますので、またみんなで意見を出し合っていけたらいいなと思います。

○松田委員 今、先名委員がおっしゃったことは、まさにそのとおりで、やっぱりフィードバックがないと、どうなのかなというところが見えないと思うのです。QRコードをつけて、ぴっとやるというのは非常に楽というか、スムーズにできますので、ご家庭のお母さん、お父さんたちがそれでぴっとやって、よくやっているよとか、もしくは、こういうふうにしてほしいなみたいなどころを書いてもらうだけでも、かなりのフィードバックになると思うのです。それが次の事業評価につながるような気がしているので、いいアイデアだと思います。

あとは、この事業をなくしてほしいという意味で言っているわけではなくて、この事業をどう使って教育活動に生かしているのかというところが見えなかったので、学校なり家庭なりで何かしら生かせるようなものを先に積んでいくような形にしないと、やっていて意味があるのかなと思ったので申しました。

○大沼会長 本当におっしゃるとおりで、せっかくやるのだから、活用して、目に見えるものがあるといいなということだと思います。

このあたりは、環境局と、もしかしたら教育委員会や学校の先生方と詰めていただければと思います。

それでは、石澤副会長、前半のほうでも後半のほうでもいいので、何かありましたらお願いします。

○石澤副会長 年に2回、この会に参加させていただき、まず、皆様たちが環境について真摯にご意見を出し、それをしっかりと受け止めてくださる土壤があり、次回のときには生かすと言ってくださる発言を頼りに、私たちもしっかりと考えていきたいと思っていますところです。

私も教員をしていたときに、エコライフレポートを最初に切り取って保管し、煩雑な思いをしていましたが、今はフォームスになったということで、とても簡略化できていると感じています。その項目によって取組率が違いますよね。ということは、子どもたちは、この回答をするときに、自分の生活を振り返って、できたかなとか、これは難しかったなとか、次回頑張らなければと思いながら評価しており、その数値がこのパーセンテージに表れてきていると考えると、紙一枚ですけれども、配る前の教師の働きかけ、そして、冬休みに取り組みながら、戻ってきたときに子どもが振り返る貴重な機会になっていると思います。家庭を巻き込んでいくかというところは別にしても、子ども自身が自分の生活を振り返る、環境について考える機会にはなっていますし、学校の中では、夏休み、冬休みにエコライフレポートをするということが、ある意味、文化にはなっていると思いますので、そう負担なく、子どもたちの環境や自分の生活を振り返る機会としては価値あるものにはなっていると思いました。

これは何においても言えますが、エコライフレポートの数値を見ていると、しっかりと取り組んでいくうちに成果が現れてくるのではないかと思いますし、新しい取組として、サステナKIDS AWARDも3月から新しく始まりましたが、それも企業とG7の札幌で行われた大きな会議をきっかけに新たな事業が始まったということでも、また一つ進化できていると思

いますので、継続していくもの、見直していくもの、そして、進化していくものがしっかり示されたと思いました。

今日は、参加させていただきましてありがとうございました。

○大沼会長 ありがとうございました。

それでは、議事（２）は終わらせていただきまして、議事（３）のその他で用意があるようなので、まずは事務局からご説明をお願いします。

○事務局（谷内環境教育・啓発担当係長） 資料４を基にご説明します。

こちらは、７月１１日付で報道機関に発表したプレスリリースでございます。

こちらにあるとおり、札幌市環境局、札幌市小中学校環境教育研究会、通称「環教研」及び株式会社アドバコムが、環境教育等についての連携協定を７月２６日に締結するというものです。

環教研は、全国の小中学校環境教育研究会の札幌支部ということで、今年４月に設立されました。会長は、今、こちらにいらっしゃる斉藤委員が務めておりまして、市内の現役教員が中心となって構成されています。

先生方の集まる研究会というのは、これまでも国語とか算数といったように科目ごとにはあると伺っているのですけれども、環境教育となりますと、正式科目として存在していない上に、社会科とか理科とか家庭科とかいろいろな科目が横串で関わってくるため、そういった研究会は今まで札幌にはなかったと聞いております。

そんな中、環教研が立ち上がったことや、株式会社アドバコムというのは、子ども環境情報紙エコチルを発行して小学校などに無料配付している会社ですけれども、そのエコチルがちょうど創刊２０年目を迎えたことを契機に、行政、学校教員、企業が役割分担の上で連携して環境教育などを推進していくという先進的な環境教育等のモデルの構築を目指して本協定を締結することになりました。

プレスリリースの裏面にありますとおり、３者が持つそれぞれの強みを生かして連携することを予定しております。

具体的に連携してどういうことを進めていくかはこれから３者で詰めていく予定ですが、想定としましては、最初に説明した環境副教材の電子化に私たちは取り組まなければいけませんので、環境副教材の学校現場での実践的な使い方や、学校や児童への周知方法などについて、両者のお力を借りながら進めていきたいと考えております。

説明は以上です。

○大沼会長 ご説明をありがとうございました。

こちらの環教研の会長を斉藤委員がお務めいただいているということですので、斉藤委員からも補足をお願いいたします。

○斉藤委員 今、谷内係長からご説明がありましたが、実際にこの会議の中でもありましたように、現場の先生の意見だったり、アイデアだったり、必要な部分が見えてきていると思います。

例えば、先ほどからたくさん議論されているエコライフレポートを作成していくところにも、もしよろしければ、連携協定を結ぶことになりましたので、私ども環教研の先生方がここに参画するとか、三浦先生からもお話があった環境副教材ですね。この中身は大変すばらしくて、これに携わっている先生方は、私も社会科をやっているのですが、社会科の仲間もいますし、理科の先生もいますし、能登委員のような生活総合の先生もいらっしゃいますし、そうそうたるメンバーでつくっているものですので、もっともっと学校で活用されるものにしていきたいと私も思っています。ですから、ここに環教研が参画して、学校と環境局をつなぐ役割をしていきたいと思っています。

また、環境教育・環境学習ガイドにもたくさんの事業や取組の一覧がありますけれども、札

幌市は、たくさんの団体、企業が関わっていながら、それぞれ点で存在していて、学校現場と結ぶということがまだ足りていないと感じますので、そういったところのかけ橋にもなっていきたいと思っています。

ご存じのとおり、今、学校はいろいろ大変な状況の中で、管理職としては働き方改革も進めていかなければいけませんので、数あるいろいろなものをうまく整理して、質の高いものを子どもに提供して、いい教育をしていくというところに全力で取り組んでいきたいと考えております。

○大沼会長 ありがとうございます。

非常にすばらしい取組が一つの形として、これまで点ではたくさんあったものを線でちゃんと結んでいこうということです。今までもいいものをすごくたくさんつくってきたし、いいことをやってきたと思うけれども、それが何となく拡散していたのをここでぐっと引き締めて広げようという非常にすばらしい取組かと思います。

何かご意見などはありませんか。

○欠委員 今、聞かせていただきまして、これは、日本あるいは世界的な、もう身近な、すごく差し迫った問題ですので、各学校からみんな来てくれというぐらい、思い切り出していいと思います。ぜひPRして集めていただきたいと強く感じます。これは緊急の問題です。今日、明日の身近な問題でもあると思いますので、よろしくお願いします。

それから、今日は、ちょっと早く来て、エコチルの見本を見せていただきました。先生方は皆さん分かっていると思うのですが、私は初めて見ましてびっくりしました。かなり内容が濃いです。いいです。これは、社会科の目で見ても、生活科の関係とか、もちろん理科もそうでしょうけれども、いろいろなところから見てもすごくよくて、無駄がありませんか、各学校はぜひ活用をしていただきたいです。

多分、ほとんどの学校に来ているということですが、恐らく、学年とか学級でこれはという部分があれば、その一部分でもマスプリをして、子どもに渡したり、考えをちょっと書かせるということもやっていいのですよね。できるのではないかと思いますので、ぜひ積極的な活用をお願いしたいと思います。

市教委には全部の学校に通達をお願いしたいところですが、民間のものなので、公的なほうからどうやって触れていいのか分からないのですけれども、内容は濃いです。すごいと思いました。

○大沼会長 エコチルは、道内の小学校にはほぼ全部に配付されていますね。

ちなみに、これは首都圏、関西圏でも配られているけれども、一部配られなくなった地域もあると伺っています。道内では、とにかくこれを20年続けたということで、道民の皆様、学校の皆様がそれだけみんなで支えて育てたということもあるのかなという感想を持っています。

○野田委員 エコチルは、十何年前につくるときに関わりましたが、今は、札幌市内、北海道の小・中学校は全部に配っているのではないかと思います。

今は、大阪まで伸びて、大阪とも連携協定をして、大阪でも無料で配るところまでくるなど随分進出していると聞いています。

全然関係ないですが、今日配ったのですけれども、今日のエコチルには私が出ています。

別にどうということはないのですけれども、レッツ・トライ・エコライフというコーナーに顔写真つきで出ています。

偶然の余談ですけれども、以上です。

○大沼会長 うちの子も中学校を出てしまって、これを手に入れられなくなって久しいので、後でどこかで手に入れさせていただきます。

○松田委員 環教研が今年4月に立ち上がったということですが、これは札幌市教研の中にあ

るのですか。

○大沼会長 これは全国組織になるのです。文科省と環境省と環境教育学会でしたか、どこかに説明があったと思います。

○松田委員 ありましたね。

私は日本環境教育学会北海道支部の副部長なので、今、初めて知って、そうなのかと思いました。ぜひ連携してやっていければと思います。

今日、この後、支部総会があるので、その際に確認をしたいと思います。

また、今年、日本環境教育学会の全国大会が北海道で開催されます。

皆さん、知らなかったですか。

多分、方々に連絡していると思ったのですが、10月に行われます。環境の頭脳が集まりますので、ぜひよろしくお願いします。

札幌ではなくて、釧路でやりますので、皆さん釧路においでください。よろしくお願いします。

○大沼会長 まさにここには、環教研の会長と、それを支える一つのウイングである日本環境教育学会の支部の副会長もいらっしゃるのです、このブレインでいろいろなところにネットワークをさらに広げて、活動の輪を広げていける場となればいいなと本当に願っています。

○野田委員 環境の全国大会もありますね。

私どもは、北海道中学校理科教育研究会で、私は事務局長をしていますけれども、今年、これも札幌で全国大会があるのです。8月6・7・8日、教育文化会館で講演や分科会、それから、ホテルライフォートでレセプションなどを行います。中学校の理科は、四つの分科会があるうちの一つが環境教育なのです。全国の理科の先生方が環境教育について研究してきたことを発表し合うという分科会があり、教科調査官などと呼んでご講演いただくことになっています。

ただ、理科と環境の団体と先生方は大分重なっているのです、8月の6・7・8日までは理科の大会をやってもらって、重なっている人たちは、理科が終わってから環境の大会に行ってもらってというようにしていただいて、今年は環境について熱い北海道なのかなと感じておりました。

○大沼会長 北海道、札幌は、全国的にもっと知られていいぐらいの活動をしていると思うのですが、距離の二乗に比例してか、情報がだんだん欠落していくのがもったいないといつも思っています。ですから、この北海道で開催される機会に、本当に胸を張れる内容がたくさんあると思うので、ぜひそれぞれでこれでもかというくらいアピールを一ただアピールすればいいという話ではないですが、いい活動はいい活動として知っていただくということが非常に大事かと思えますし、今年は当たり年のようですので、ぜひ広がればいいなと思っております。

私も、環境教育はやっていないですが、いろいろな側面で関わる人が多いので、そういう機会に、微力ながら何かできることがあればなと思っております。

では、今日の議事は以上で全て終わりになります。

それでは、事務局から連絡事項等をお願いいたします。

○事務局（飯岡環境政策課長） 本当に熱心なご議論をどうもありがとうございました。

メンバーでいらっしゃる環境教育を支えていただいている先生たちや、市民委員の皆様も含めて、本当に感謝を申し上げたいと思います。

私どもとしては、とにかく子どもたちに対する環境教育を含めて次の地球を守っていくということを考えて進めてまいりますので、引き続きいろいろご意見を賜ればと思います。どうぞよろしくお願いします。

最後に、事務局からご連絡を差し上げます。

この会議は年2回やらせていただいておりますが、第2回目の推進会議は12月から1月を予定しておりますので、また時期が近づきましたら日程の調整をさせていただきたいと存じます。どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

3. 閉 会

○大沼会長 これをもちまして、令和7年度第1回札幌市環境教育環境学習基本方針推進会議を終了いたします。

本日は、短い時間での密度の濃い議論にご協力くださりまして、ありがとうございました。

以 上